

令和2年度 「石狩市教育委員会外部評価委員会」 会議録

1. 日 時 令和2年10月6日(火) 15:00～16:45

2. 会 場 石狩市役所 401・402会議室

3. 出席委員

職名	氏 名	役 職 等	備 考
委員長	伊井 義人	藤女子大学 人間生活学部人間生活学科 教授	
副委員長	鈴木 茂	元教職員 いしかり市民カレッジ	
委員	向田 久美	一般社団法人 アクトスポーツプロジェクト 代表	

事務局 (12名)

生涯学習部長 安崎 克仁
生涯学習部理事 西田 正人
生涯学習部次長(教育指導担当) 石橋 浩明
生涯学習部参事(指導担当) 山田 潮
総務企画課長 松永 実
学校教育課長 伊藤 英司
教育支援センター長 幸田 孝仁
社会教育課長 兼 公民館長 板谷 英郁
学校給食センター長 櫛引 勝己
文化財課長 工藤 義衛
総務企画課総務企画担当主査 鎌田 晶彦

4. 傍聴者 1名

5. 議事要旨

～ 開会 ～

生涯学習部長挨拶

～ 議題 ～

伊井委員長

【進め方の確認】

大項目ごとに、また、全体に渡るものは最後に、皆さまから事前に頂いている「ご意見など」を伺いながら、「点検評価報告書に記載する意見」を決めます。

事務局が事前に集約した各委員からの意見等の資料をもとに進め、事務局からの回答を参考に、意見として報告書へ記載するか、質問・感想等にとどめるかの判断を行っていくこととします。

本委員会は審議会ですので、「点検評価報告書に記載する意見」でない様々なご発言も、議事録に残ります。

また、「点検評価報告書に記載する意見」や審議会での発言については、すぐに対応できないものについても、翌年度以降の検討対象として、教育委員会で常に、受けとめていただいているとのこと。

1. 教育委員会の活動状況について

【事前集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・昨年度の3月の臨時会議では、「新型コロナウイルス感染症対応」について話し合われています。令和2年度での対応協議がメインかと思いますが、概ねどのようなことが話されているのかをお聞かせいただけますでしょうか。
2	鈴木	・義務教育学校をはじめとする教育環境整備や各種事業が的確に実施されたことに敬意を表します。また、今後5年間の新教育プランによって示された目標と方向性が新時代にふさわしい教育の質的向上を目指して推進されることを期待します。

松永総務企画課長

No.1については、令和2年3月5日に行われました臨時の教育委員会会議で新型コロナウイルス感染症対応について、報告事項として取り上げている案件です。

全国一斉の臨時休業の要請や北海道知事が緊急事態宣言を行うなど、この時期学校も市教育委員会ともに新型コロナウイルス対応に情報も錯綜し大変混乱した時期でした。具体の対応をご説明いたします。

①2月27日から3月24日（市内各学校終了式の日）までの間、臨時休業としました。

②各家庭において臨時休業中の子どもたちの過ごし方、例えば体温を計るよう指導するといった周知をしました。

③臨時休業中の家庭学習の取組について周知しました。

④卒業式や修学旅行の学校行事の取扱いについて、特に卒業式は、時間の短縮を図ることや保護者、在校生の隣席を控えるといった取組をする状況となりました。

⑤分散登校の実施です。本市は、3月10日以降に学校で臨時休業中ではありますが、60分程度の短時間の登校日を設け、子どもたちの健康状態や学習状況の把握などを行

いました。

⑥子どもの緊急居場所対策として保健福祉部と連携し、普段放課後児童クラブを利用している児童に加え、児童クラブを利用していない小学校1年生から3年生の児童を対象に、朝8時15分から午後14時までの間、学校での一時預かりの取組を行いました。

⑦市内教育機関の施設の臨時休業について、説明しました。

続いてNo.2については、新たな教育プランにおいても、これまでの教育理念を継承しつつ、大きく変化する社会情勢に対し、市民一人一人が主体的に社会と関わり、活力ある地域社会を創り出していくことができるよう、これからの市が目指す教育理念や方向性を明確にし、計画的に教育施策の推進を図ってまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○義務教育学校をはじめとする教育環境整備や新型コロナウイルス感染症対応を含め各種事業が的確に実施されたことに敬意を表します。また、今後5年間の新教育プランによって示された目標と方向性が新時代にふさわしい教育の質的向上を目指して推進されることを期待します。

2. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性～

【重点テーマ1 自ら学ぶ意欲を育てる教育】

施策（大項目）1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・指導主事・学校教育主事による学校改善の取組の成果が学力向上に繋がっている状況は高く評価できます。具体的にどのような手順を持って、学校改善に繋がっているのかを簡単に教えて下さい。
2	伊井	・幼稚園部で実施している「預かり保育」の実態と「預かり時間」延長への対策を教えてください。
3	鈴木	・学校・学習指導改善や各種の連携・支援事業によって得られた成果と課題を検証・評価し、子どもの主体的な学びの質を高めるために一層の改善充実を望みます。
4	向田	・10P最後の文にH28年度小5の算数が最低レベルであったが、R1年度中2になった時に上昇とあるが、どのような対策を取られたのでしょうか

山田生涯学習部参事

No.1については、指導主事や学校教育主事の指導助言が学校改善につながるサイクルをお示しいたします。

①年2～3回の学校訪問等において、授業参観し授業改善に資する指導助言、各種調査結果を受けた改善の方向性についての指導助言を行います。

- ②各学校では、指導助言の内容を生かした校内研究・研修、授業検討を行います。
- ③各学校は、学校経営についての学校評価（中間評価、年度末評価）において、指導助言を生かした日常の授業改善、校内研究・研修内容の振返りをを行います。
- ④数値化した結果をPDCAサイクルに基づき、教職員の共通理解の下で再構築していきます。
- ⑤授業公開の機会に、改めて指導主事や学校教育主事による授業改善の成果と課題について検証しています。

続いて、No.3については、子供の主体的な学びの質を高めるために、学校教育指導訪問・学校訪問、校長・教頭会議等で、各種事業における優れた実践や取組について情報発信をしております。

No.4については、市教委としまして、各種調査ごとに結果と課題改善策を各学校に伝え、これを受けて各学校では改善の方策をより具体化し、取組の方向性を明確化しています。この改善策の積み重ねが令和元年度の結果に至ったのではないかと分析しています。また、各学校へ学校が全体のチームとして取り組むということが大事であると市教委から伝えていることも成果の一つではないかと分析しています。

松永総務企画課長

No.2の、預かり保育については、幼稚園部の教育時間の前後に実施しており、令和元年度と平成30年度に利用している園児は、延べ約60,000名前後で推移しています。

また、預かり時間については、市内認定こども園では、保育所の預かり時間とほぼ同様の水準で提供しており、今後とも本市としては、補助金を交付することにより、保育体制の確保や充実を図っております。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 学校・学習指導改善サイクルの充実や各種の連携・支援事業によって得られた成果と課題を検証・評価し、子どもの主体的な学びの質を高めるために一層の改善充実を望みます。
- 幼稚園部で実施している「預かり時間」延長への対策など一層の充実を望みます。

施策（大項目）2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・石狩市での優れた特別支援教育の知見・経験を、各学校のコーディネーターや特別支援学級担当教員、一般教員に幅広く共有される仕組みづくりを、今後も期待します。

2	鈴木	・教育支援センターを中心に関係機関と連携して取組んで得た知見・成果を共有し、一人ひとりの思い（教育的ニーズ）に寄り添う支援のあり方を追求し一層の充実を図るよう望みます。
---	----	--

幸田教育支援センター長

No.1については、特別支援教育相談員の学校訪問を適宜行っています、その際に学校の特別支援学級担当教員・特別支援教育コーディネーターと連携し、児童・生徒の状況の確認を行っています。また、特別支援学級担当教員・特別支援教育コーディネーターを対象とする研修会の開催、学校管理職を加えた会議として平成30年から特別支援教育会議を開催し、メンバーに特別支援学級担当教員、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育相談員だけではなく、校長や教頭が参加することで情報を共有する取組を始めています。また、令和元年度からは、教育支援会議と名称を変更し、市のスクールソーシャルワーカー、学校のスクールソーシャルワーカー連携教員も会議に参加し、特別支援教育と就学支援との連携を図るようにしています。このような仕組みづくりを工夫して進めてまいりたいと考えています。

No.2については、関係機関、関係支援機関との連携により情報共有しながら、支援の必要な児童生徒の教育的ニーズを的確に把握し、寄り添う支援方法について今後も研修して充実して参りたいと考えています。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○教育支援センターを中心に各学校・関係機関と連携して得た知見・成果を共有し、子ども一人ひとりの思い（教育的ニーズ）に寄り添う支援のあり方を追求し一層の充実を図るよう望みます。

施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・SATや支援ボランティア数の延べ人数も増え、「地域とともに歩む学校」が着実に推進されているのではと評価できます。このような地域連携に学校間・地域間の格差がないのかを教えてください。
2	伊井	・コミュニティ・スクールの先行事例2校での経験を、他の学校の準備段階にどのように参考にして行くシステムづくりが成されているのかをお聞かせください。
3	鈴木	・子どもにとって魅力ある学校、保護者・地域の共感と協力を得られる教育活動の推進がより成果を収めるために、教職員が一体となって挑戦できる条件整備（協働体制・課題の精選・働き方改革・人的配置等）を図り充実されることを望みます。

伊藤学校教育課長

No.1については、スクールアシスタントティーチャー（通称「SAT」）は、学習支援・スポーツ支援の大きく分けると2つのものがあります。令和元年度につきましては、学校規模により人数・回数に多寡はあるものの、市内全ての学校において活用されている状況です。一昨年度においては、活用していない学校もありましたが、元年度では、全ての学校で活用されたということもあり、学校間や地域間における格差は少ないものと判断しています。

次にNo.3については、近年教員の長時間勤務が大きな問題となっており、働き方改革ということが叫ばれている情勢です。平成30年12月に「石狩市立学校における働き方改革推進計画」を定めまして、平成30年から令和2年度までの3年計画で取り進めています。

この取組により、少しでもより良い教員環境を整えて参りたいと考えています。

板谷社会教育課長

No.1については、地域とともに歩む学校ということで、学校支援地域本部事業を行っています。都市化が進む地域では、地域との関わりが希薄になるというようなことが言われていますことから、花川地区に焦点をあてて実施することで格差がないようにしています。

松永総務企画課長

No.2については、4月より義務教育学校厚田学園、新たな統合校である石狩八幡小学校の2校の開校と同時にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、新しい学校づくりをスタートしました。

このコミュニティ・スクールの制度を有機的、効果的に運用するために、様々な要素や視点がありますが、特に学校長のリーダーシップが不可欠であると認識しています。学校長が掲げる学校教育目標、学校経営方針や目指す子ども像について、保護者も含め、学校運営に関わる方と共有を図り、同じ方向を目指すことが、大きい視点であると考えています。2校の開校までの取組として、開校準備委員会でどんな学校づくりを進めていくのか、議論・協議が行われてきました。その協議内容や、道内で先行して導入している学校の取組事例等について、毎月の定例校長会議等で共有する取組をしています。

伊井委員長

コミュニティ・スクールの説明がありました。確かに学校長のリーダーシップは重要であると全国的な事例からも、すでに分かっていることと思います。厚田学園などの先行事例を参考として進めていただきたいと思います。

（上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。）

○「地域とともに歩む学校」が着実に推進されていると評価します。また、子どもにとって魅力ある学校、保護者・地域の共感と協力を得られる教育活動の推進がより成果を取

めるために、働き方改革を踏まえ、教職員が一体となって挑戦できる条件整備を図り、充実されることを望みます。

施策（大項目） 4 学校教育を推進する環境の充実

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・学校での ICT 環境は整備されてきたものと認識していますが、児童生徒の家庭での ICT 環境の実態調査は、教育委員会で実施されているのでしょうか。 家庭での環境格差が、今後、子どもたちの学力格差につながらないための施策を策定されることを望みます。
2	伊井	・昨年度の意見にも掲載されている、福祉と教育が連携した対応の進捗状況を簡単にお聞かせください。
3	鈴木	・ ICT 機器の配備が急速に進められつつあるが、すべての子どもが平等に学ぶことのできる環境整備と適切な運用への支援の充実を望みます。
4	向田	・「GIGA スクール構想」等は、今回のコロナ禍と同様な事態に遠隔授業が出来、今後とても重要になると思います。 しかしながら、リモートではアウトプットが少ない為、リモート配信の後に小テストなどで確認、落とし込みの作業が必要と思います。
5	向田	・（生活困窮世帯の子どもに対する学習支援） 市役所の空きスペースで学習支援をしていると聞きました。 空きスペースを活用して気軽に支援を受けられるスタイルは、とても良い取組と思います。このような活動が市全体のレベルアップになると思います。

伊藤学校教育課長

No. 1・No. 3・No. 4については、学校の臨時休業に伴い、児童生徒の各家庭におけるインターネット環境の有無について、調査が必要となり、令和2年5月に実施したところ、79%の家庭が高速のインターネット回線を所有していることが判明しました。残りの21%については、インターネット回線はあるが、十分な速度がない、もしくは回線がないと回答を得ています。

令和2年度において児童生徒1人1台端末導入の実現の際、家庭におけるインターネット回線は必要であるという考えに基づき、貸出用Wi-Fiルーターの購入を予定しています。現在約4,600人の児童生徒がいますので、1,000台のルーターを購入し、インターネット回線がない家庭へ貸与する予定です。

文部科学省が推進するGIGAスクール構想に基づき、令和2年度においてインターネット回線のない家庭向け貸出用のWi-Fiルーターを購入するほか、児童生徒の1人1台端末の導入を予定しています。また端末の整備と指導する教員の研修を実施する考えです。現状、遠隔授業を行う際は、単方向の授業になってしまうと先進地の自治体から

聞いているところですので、今後は、双方向での形態や導入するソフトウェアの機能を活用し、単方向とまらない授業となるよう検討しています。

鈴木副委員長

ぜひ、すべての子どもが、活用できるようよろしくお願い致します。

幸田教育支援センター長

No.2・No.5については、平成28年度より設置されました「子ども総合支援本部」を基に、教育と福祉の連携ということで、協育エキスパートチームが置かれ、主に生活困窮世帯の学習支援を行っています。構成は、保健福祉部の家庭生活支援員、教育委員会のスクールソーシャルワーカーとなり、支援が必要な子どもを把握し、支援をしています。現在、支援を必要とする子どもは19名となっています。昨年は26名です。

取組として、子ども総合支援本部会議を年1回、エキスパートチーム会議を年定期で2回、随時、支援が必要な子どもの状況に応じ、担当者間の打ち合わせを行っています。

令和元年度は、6月の開催のあと、令和2年の2月に、コロナ禍における子どもの状況把握に時間を要し、また令和2年の第1回の会議も6月開催予定でありましたが、学校の臨時休業明けということで、学校ごとに、これから状況把握を行うということで、続けて2回エキスパートチーム会議が開催できなかった状況であり、現在情報を集約して、情報共有を図ろうと取り組んでいるところです。

但し、支援が必要な子どもにつきましては、会議とは別に担当者同士で情報共有しています。コロナ禍において、学校の長期臨時休業もありましたが、エキスパートチームのなかで、コロナの影響で重大な事態に発展した事例や問題が発生した事例は、1件も把握していません。

次に、市役所の空きスペースで学習支援につきましては、保健福祉部の家庭生活支援員が行っている学習支援で、とても良い取組であると感じています。

教育支援センターのスクールソーシャルワーカーも相談業務がメインであり、対象児を把握するのは、いじめはアンケートであったり、不登校は学校からの情報提供であったり、また学校巡回の声掛けで把握しています。気軽に支援を受けられるという状況というのが、向田委員のご意見であると感じていますので、子どもが気軽に相談できる体制づくりも必要だと思っています。

向田委員

教育委員会だけではなく、保健福祉部との連携で取り組まれていることが、初めて分かりましたので、市役所全体で子どもたちの支援があるということは、良いことだと思いますので、今後もよろしくお願い致します。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○ICT機器の配備が急速に進められつつあるが、家庭環境に拘らず、すべての子どもが平等に双方向で、学ぶことのできる環境整備と適切な運用への支援の充実を望みます。

○生活困窮世帯を含む様々な家庭の子どもへの支援の一層の充実を望みます。

【重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】

施策（大項目）1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・高校受験などの影響もあり、中学生の読書離れが進行していることが数値上も明らかです。この点に対する対策事業を期待します。
2	伊井	・いじめの認知件数を増やした上での、いじめの根絶を目指すという目標を報告書においても、丁寧に説明する必要があるのではないのでしょうか。そのためには、認知した後の取り組みを評価する指標も必要になると感じます。
3	伊井	・石狩市のSSW事業は、道内での先進事例だと聞いております。その成果をぜひ、市内外に広めていかれることを期待します。
4	鈴木	・様々な体験的活動を通して得られた気づきを、自らの思いで次に繋げることのできる機会や場がより多く常設されることを望む。
5	鈴木	・不登校になりがちな児童生徒への学習権を保障する手立ての工夫など方向性に沿った支援の充実を望みます。（オンラインでの授業参加等）

西田生涯学習部理事

No.1については、旧石狩市内の中学校5校は、数校掛け持ちの体制で、各校へ学校司書を配置しています。また、学校図書館司書と図書館職員、本館の司書で月1回連絡会議を実施し、情報交換を行っています。

図書館としまして、各学校の図書館関係者の意見を参考にし、施策を検討していくというのが大事であり、今後も関係者と連携し対応策を検討いたします。

幸田教育支援センター長

No.2・3・5については、ご意見のとおり、点検・評価報告書26ページの分析評価を、『小中併せて1,073件のいじめの認知件数となっていることは、「いじめの芽」や「いじめの兆候」を早期の段階で把握し学校組織で事案の対応にあたるという意識が醸成されてきていると評価しているが、認知したいじめの解消率が1,068件(99.5%)であるため、いじめ根絶を目指す意味からは課題が残る。』と訂正させていただき、

方向性については、「いじめ解決に向けたスタートラインにたつこと、そして」の後に、「いじめの根絶を目指す」を加えさせていただきます。また、次年度以降、成果指標に「いじめの解消率」を追加いたします。

次に、スクールソーシャルワーカーは現在3名雇用し、うち1名は北海道の補助制度を活用して雇用しています。札幌を除く石狩管内において、スクールソーシャルワーカー3名というのは、当市が一番多い状況で、ご意見のとおり率先して進めていかなければ

ばならないと考えています。なお、研修現場で意見を求められることもあり、また北海道の財源で雇用し、道への事業報告を行っている関係から当市の事例を広く周知していきたいと思っています。

不登校児童生徒の対応策としまして、学校へ復帰するというところだけを目標とするのではなく、その子が社会的に自立する力をつけることが、大事な視点と想着っていますので、例えば学校に行けなくても、どこかで学ぶ機会を提供することが大事であると思着っています。

当市は、学校外の教育指導施設と位置づけられる「ふらっとくらぶ」を活用し、学校へ行けない子への教育環境の提供をしています。今後も「ふらっとくらぶ」による支援を充実していきたいと思っています。

オンラインでの授業参加について、不登校児童生徒に対する支援は、その子の学習の進度、進み具合に応じて個別の学習カリキュラムが必要となり、授業の風景を流すような単方向の方式では、難しい問題でありますので、「ふらっとくらぶ」を活用した支援を検討いたします。

鈴木副委員長

学校に来られない子は様々ですが、不登校児童生徒が、オンラインでの学習がきっかけとなり、友達と一緒に学習したいという意欲が湧いて、学校へ行けるようになったという事例も聞いていますので、今後の課題ということで検討願います。

山田生涯学習部参事

No.4については、ご意見のとおり、各学校では、学校で学んだ様々な知識や技能といったものをさらに深め、学びの蓄積に繋がる取組となるよう教育委員会より学校へ伝えています。

令和元年度、キャリア教育、事業者100数社の協力をいただき、職場体験学習などを行っています。参加者の生徒から、学習した中身を生かすことができたという声があります。事業者からは、働くことの大切さを中学生の段階から教育として位置付けていくことの重要性を改めて認識しているといった声をいただいています。

また、令和元年度、市内6校でパートナースクールを実施し、参加者アンケートでは、非常に効果があった、学校間交流や豊かな自然環境にふれることができ良かったという回答を得ていますことから、引き続き、学びを深め、豊かな心の醸成を図るために様々な施策を実施していきたいと思っています。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 学校司書を通じて、学校と連携を取りながら子どもの読書離れの対応策の一層の検討を望みます。
- 石狩市のスクールソーシャルワーカー事業の成果を市内外に広めていかれることを期待します。
- 様々な体験的活動を通して得られた気づきを、自らの思いで次に繋げることのできる

機会や場がより多く常設されることを望みます。
 ○不登校になりがちな児童生徒への学習権を保障する手立ての工夫など方向性に沿った支援の充実を望みます。

施策（大項目）2 心身の健やかな成長を促す教育の推進

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・石狩市内の「女子」の体力・運動能力などの一層の向上を望みます。必要に応じて、専門家と連携した対策の実施を望みます。
2	向田	・肥満傾向が未だに続いているのは、残念です。 コロナの影響でさらに運動する機会を制限され、子どもたちの身体機能と精神面が心配です。

山田生涯学習部参事

体力テストの分析を毎年行っています。女子の運動能力・体力について、平成30年度と令和元年度を比較しますと、令和元年度は若干伸びているという状況です。その年、その年の児童生徒の体力的な質というのがありますが、学校としては、体力に関わる「1校1プラン」、例えば、学校によっては、縄跳びを重点化するなど、体力向上に向けて体育の授業前段で、または休み時間に行い、年々、微増している状況であります。

そして、数値の結果だけではなく、児童生徒に体を動かすことの楽しさや競い合うおもしろさ、自らの体力向上を実感できる満足感を味わわせたりすることが大事だと考えています。

次に、新型コロナウイルス感染症による休校期間において、6月からの学校再開当初は、学校の生活リズムに慣れておらず、体力的・精神的に落ち込みが見られたようですが、現時点では、通常の様子であると学校からの報告を受けています。

各学校で行っている「体力1校1プラン」の取組を通して、児童生徒に体を動かすことの楽しさや競い合うおもしろさ、自らの体力向上を実感できる満足感や充実感を味わわせるよう引き続き伝えてまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○体力1校1プランなどを通して、身体を動かすことの経験のより一層の充実を望みます。

【重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育】

施策（大項目）1 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・地域全体で子どもを育てていくという意識が一層醸成されるシステムづくりを期待します。
2	鈴木	・子育てに悩む親へのサポート体制を関係者と専門家との連携による一層の充実を望みます。
3	向田	・最近、不審者情報のメールが多く、内容も子どもたちへの声掛けが大半を占めているように感じます。 子どもたちを見守るシステムやこども110番事業のさらなる充実を望みます。

板谷社会教育課長

No.1については、地域全体で子どもを育てていく意識を醸成していくことは、ご意見のとおり大事なことと感じています。当課としては、学校支援地域本部事業のなかで地域と学校がパートナーとして、連携・協働すること、また事業をPDCAサイクルで廻していくことで、地域全体で子どもを育てていくという意識の醸成を図ってまいります。

伊藤学校教育課長

No.2については、子どもへの暴力防止プログラム（CAPプログラム）を取り組んでおり、小学校3年生を対象に、いじめや虐待、不審者等への対応などで、守られるだけではなく自らが声を上げることができるような体験プログラムを学校で展開しています。

更に保護者や教員に対しても定期的に大人向けのワークショップを実施しています。子どもに対する親もしくは、大人の接し方、関わり方といった研修会を行っています。こういったものを通して地域、家庭、学校の連携や子どもへの話し方などの研修を実施し、子育てへ悩む親へのサポートを行ってまいります。

幸田教育支援センター長

No.2・3については、令和2年7月に小学生女子児童への声かけが多発した時期がありました。その際は、町内回覧で地域皆様へ改めて子どもたちの見守りをお願いした経緯もあります。学校、地域、教育委員会、警察など関係機関が一体となって、子ども見守り活動、スクールガード、声かけ運動などが大事だと思っています。

次に、こども110番事業につきましては、来年度が登録の更新時期となっていますので、今年広報や回覧板などを活用して登録を依頼する年となります。不審者から子どもたちを守る活動は続けてまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 学校支援地域本部事業を中心として、地域全体で子どもを育てていくという意識が一層醸成されるシステムづくりを期待します。
- 子育てに悩む親へのサポート体制を関係者と専門家との連携による一層の充実を望みます。

○学校、地域、市教委、関係機関が一体となりながら、子どもたちを見守るシステムやこども110番事業のさらなる充実を望みます。

施策（大項目）2 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・コロナ禍においても、社会教育・生涯学習が持続できる工夫など、今後必要になります。学校教育と比べ、対象者が高齢となるため、インターネット上での活動は難しいと思いますが、ぜひ、前向きな取り組みが継続されるよう願っています。
2	鈴木	・市民の多様化する学習ニーズを統合して生涯学習へと組織化するために、専門的スキルを有する人材を育成し、活動を支援する体制を充実させることを望みます。

板谷社会教育課長

No.1・2については、現状、徐々に活動は、再開していますが、練習が出来なかったことにより市民文化祭が中止になるなど、影響はあります。今後は、文化祭を希望する団体に対し、インターネットを活用し、発表を配信することを検討し、また、市が撮った記録映像を公開することで、生涯学習の一助となるような取組を前向きに実施しています。

次に、専門的スキルを有する人材を育成し、という意見ですが、「いしかり市民カレッジ」は、運営するスタッフが専門的スキルをもち、運営しています。また、教える事が得意な方は、まちの先生として教えるといった仕組みが出来ています。国でも先進事例として取り上げられていますことから、市が誇るべき人材活用になっていると感じています。但し、それだけに頼るのではなく、社会教育課として職員が社会教育主事の資格をとり、スキルアップを図ることで、生涯学習の支援になるよう考えています。

鈴木副委員長

今現在、活動している団体も高齢化しているなか、若い方のニーズも多様化し、まとめて活動することが難しいといった課題もあります。幅広い年代層の人たちの思いを社会教委主事の働きかけで幅広い年代層をまとめて組織化する活動が必要になると感じております。組織化に至る過程での活動に対する支援をお願いいたします。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○市民の多様化する学習ニーズを統合して生涯学習へと組織化するために、専門的スキルを有する人材を育成し、活動を支援する体制を充実させることを望みます。

施策（大項目）3 学習の拠点としての図書館サービスの充実

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・昨年度の意見にも含まれていますが、図書館の新たな役割を模索し、取り組みの活性化とともに、利用者数の増加を期待します。
2	鈴木	・新刊紹介の工夫や絵本特集、〇〇特集、〇〇週間等、読書やレファレンスに興味関心を引出す蔵書や資料の展示方法の工夫・充実を望みます。

西田生涯学習部理事

No.1・2については、市民図書館におきまして、昨年度から今年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の関係で休館を致しました。但し、本館では、休館中も電話やWeb予約を受け付けし、予約取り置き本の受渡しを行いました。この間、札幌市や近隣の図書館では、同様な取組を行っていませんでしたが、当市は、安全面を配慮し、利用者の不便とならないよう模索したなかで、休館措置を実施いたしました。

また、臨時休館中に友好図書館である名取市のお話動画がきっかけとなり、本館でも読み聞かせの動画配信、市民図書館を学ぶ動画を配信し、工夫を重ねてきています。

図書館の役割として、読書離れ、利用者の高齢化など課題はありますが、市民図書館の役割や運営の在り方につきまして、市民ニーズの把握に努めながら、利用者数増を目指します。

次に、特集展示について、本館では2週間に一度、分館では月に一度、特集展示を実施し、司書が役割分担しながら魅力ある展示となるよう工夫しています。また、時事にあわせてミニ特集を行っています。図書館関係団体等の意見を聞きながら今後も引き続き展示の工夫や周知に取り組んでまいります。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- | |
|---|
| ○引き続き、図書館の新たな役割を模索し、取り組みの活性化とともに、利用者数の増加を期待します。 |
| ○利用者の興味関心を引出す蔵書や資料の展示方法の工夫・充実を望みます。 |

施策（大項目）4 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・現在の連携先だけではなく、支援対象の拡大など、幅広い市民が参画できる芸術文化活動の振興を望みます。

板谷社会教育課長

石狩市民文化祭の参加者を増やす工夫や石狩市文化協会との連携を強化していく、また教育委員会からの発信力を高め、芸術文化活動をされている方と接点を持ち、芸術

文化活動の方が活動できる場を創出していくといったことを模索していきたいと考えています。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

○支援対象の拡大など、幅広い市民が参画できる芸術文化活動の振興を望みます。

施策（大項目） 5 ふるさとを学び伝える取組の充実

【事前に集約した意見】

No.	委員	意見等
1	伊井	・ふるさとを学ぶためには「実物」や「体験」を通じた活動がとても重要だと思えます。その一方で、コロナ禍の影響でインターネット上などの仮想空間での学びの推進の大切さも認識せざるを得ない状況にあります。それに伴う取り組みも今後、推進されることを望みます。
2	伊井	・これまでの成果にも敬意を表しつつ、60周年を迎える郷土研究会の一層の発展を望みます。
3	鈴木	・埋もれていた文化財が収集され価値が見出され保護・保存されることは大変喜ばしいことです。今後さらに、官民連携協力によって系統的に整備され人々の学習に供されることを望みます。

工藤文化財課長

No.1については、今年になって新型コロナウイルス感染症に伴い休館と余儀なくされ、ご意見のとおり博物館は、実物を収集し、その場で展示し、足を運んできていただくというのが、長く続いてきた形態であります。その根本から困難になるという初めての経験でしたので、博物館という在り方について、根本から考えなければならない局面でした。

現在、資料館の1階部分につきましては、グーグルストリートで一部公開しています。また、YouTubeなどを活用して、これまで収集し作成した動画などを公開するといったことの準備を進めているところです。また、Facebookの開設なども行っています。

博物館は、実物を収集し、その場で展示し、足を運んで、実物を見ていただくというのが根本ですが、現状では難しいので、対応を進めていきたいと考えています。

次に、郷土研究会につきましては、60周年ということで記念の事業として、市内の学校校歌を収集した校歌集を刊行するといった取組に対して資料館として助言をしています。

最後に、文化財の収集について、文化財の収集とは、自然の標本は、直接収集してくるという事もあります。民間から寄贈していただくという事もありますので、民間の協力というのは、欠かせないものです。

また、文化財をより理解していただくという事で、資料を作るという事で「いしか

りファイル」という民間の方も入った編集委員会で資料を作成しています。

(上記意見等にかかり、点検・評価報告書への掲載意見は次のとおり決定された。)

- 様々な方策で、実物が身近に感じられる展示の工夫を望みます。
- これまでの成果にも敬意を表しつつ、60周年を迎える郷土研究会の一層の発展を望みます。
- 文化財が収集され価値が見出され保護・保存されることは大変喜ばしいことです。今後さらに、官民連携協力によって系統的に整備され人々の学習に供されることを望みます。

施策全体

伊井委員長

項目としては以上となりますが、委員の方から最後に全てを総括して何かご意見等ありますでしょうか？

向田委員

家庭目線からですと子どもたちをみんなで守って健やかに健康に育ててくれたら、という思いで意見を述べさせていただきました。このまま引き続き市全体で子どもたちを健やかに育てていっていただく事を願います。

鈴木副委員長

突然の新型コロナウイルス感染症といった状況で、様々な施策を実行されるというのは、大変であつただろうと思います。また報告書を読ませていただきましたが、緻密に分析、評価されていると感じました。これかも石狩市の教育発展のために様々な施策を実行されるようお願いいたします。

伊井委員長

新教育プランが出来て、その1年目の成果が出るタイミングで新型コロナウイルス感染症があり、来年の点検評価は、数値的には、恐らく厳しいものが出てくるところもあるかと思いますが、数値に現れないところを文章で表現していただくことで、市の教育の特色を、検証していければと思っていますので、引き続きよろしくお願い致します。

鎌田総務企画課主査

審議につきましては、本日いただいたご意見の最終的な確認として、事務局でまとめたものを各委員へメールし、了承を得たものを議事録として報告させていただきます。

また、点検評価報告書につきましては、本日まとめられた意見を掲載して、今月の教育委員会会議に諮った後に最終決定とし、議会提出及び市民へ公表したいと考えています。

以上を持ちまして、令和2年度石狩市教育委員会外部評価委員会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。

(16 : 45 終了)

令和2年10月26日会議録確定

石狩市教育委員会外部評価委員会

委員長 伊 井 義 人